

市町村名	渡名喜村
------	------

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-	環境保全・美化推進事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア
担当部課名	民生課・経済課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度	産業の振興
			沖縄振興基本方針該当箇所	-1-(1)

事業内容
島の自然と人文の調和を基調とした魅力的な観光地づくりを推進するため、集落内や観光スポット周辺等の緑化及び美化活動を実施するとともに、外来植物(ギンネム等)の駆除及び在来植物の保全育成を図る。

実施方法
直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a)当初予算額	39,727	0	25,583	38,192
		(b)予算現額	33,068	0	26,077	27,584
		(c)増減額(b-a)	6,659	0	494	10,608
		(d)繰越額	-	21,988	-	-
		A.計(b+d)	33,068	21,988	26,077	27,584
	B.執行済額		11,080	21,988	26,077	27,584
	うち交付金充当額		8,864	17,590	20,861	22,067
	次年度繰越額		21,988	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		33.5%	100.0%	100.0%	100%
	予算の状況の説明		当初軽トラックのリースを予定していたが6月の補正で全額不用とし220千円を減額した。併せて不用額が10,608千円出ているのは、悪天候による作業休止のための賃金の減少に伴うもので、決算で不用額とした。			

活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)	達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度
		緑化及び美化活動・外来植物駆除・在来植物保全育成実施	目標	(50箇所)	(50箇所)	(実施50箇所)
	実績	50箇所	50箇所	実施50箇所		
	目標	()	()	()	()	
	実績					
達成状況説明	賃金職員(経済課)35名、(民生課)8名を雇用し、集落内や観光スポット周辺等の緑化及び美化活動を実施するとともに、外来植物(ギンネム等)の駆除及び在来植物の保全育成を図った。また、備品等は全て購入し、不用とした軽トラックのリース料以外は、ほぼ目標を達成できた。しかしながら、4月スタート予定が5月になり、また梅雨時期で作業中止が多かった。また、3月の作業が半月で終了したため計画どおりいかなかったが概ね目標は、達成できた。					

成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)	基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
		緑化及び美化活動実施箇所:28箇所	目標	(28箇所)	(28箇所)	(28箇所)
		実績	28箇所	28箇所	28箇所	
	外来植物駆除実施箇所:8箇所	目標	(8箇所)	(8箇所)	(8箇所)	()
		実績	8箇所	8箇所	8箇所	
	在来植物保全育成実施箇所:14箇所	目標	(14箇所)	(14箇所)	(14箇所)	()
	実績	14箇所	14箇所	14箇所		
進捗状況説明	緑化及び美化活動が28箇所、外来植物駆除の実施が8箇所、在来植物保全育成の実施が14箇所、全ての目標が達成できた。集落内や観光スポット周辺の緑化及び美化活動を実施したことにより、観光客や地域住民から安心安全に観光スポットを散策でき、また、本村に自生しているカワラナデシコや野ボタンなどが身近に鑑賞できるようになった。					

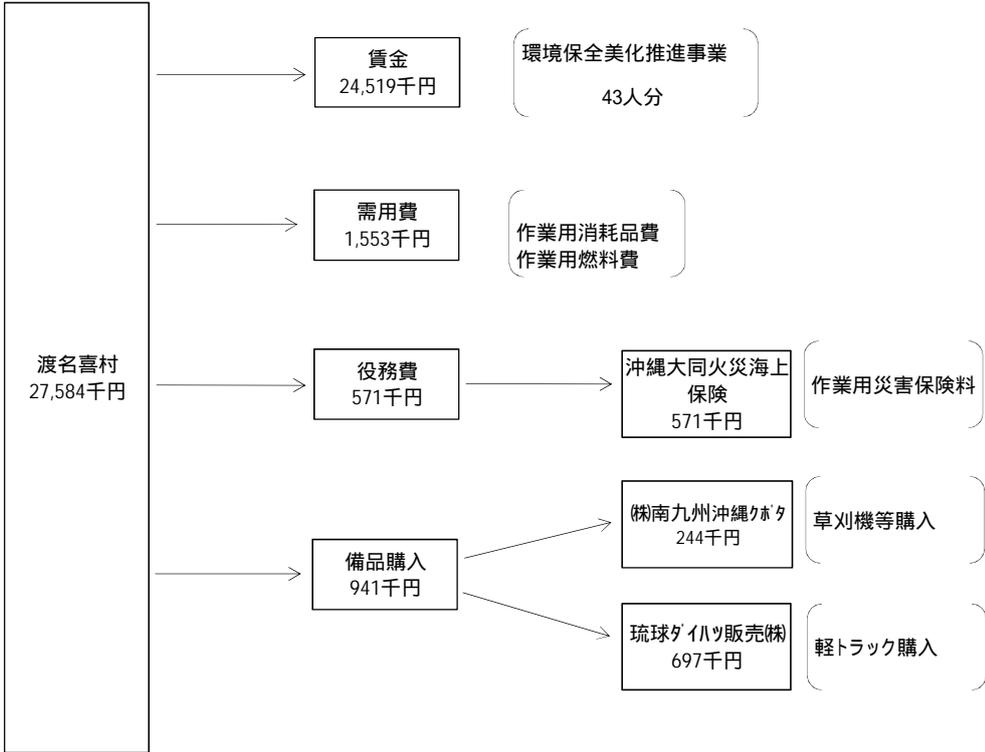
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	当初、採用した賃金職員がより待遇のいい、他事業の工事等へながれ年度末は、人員の確保が厳しい状況であった。また、天候不良により、作業休止に伴う作業日数の大幅な減少が生じた。	賃金職員の採用については、1年間継続して就業するように指導するほか計画的に人員を配置し、作業効率のアップに繋げる。

今後の取り組み方針

賃金職員の採用については1年間継続して就業するよう指導し、美化作業については作業が終了してもすぐに雑草が繁茂するので、今後も引き続き環境づくりに取り組んでいく。また、村内に自生している「カワラナデシコ」等を植栽しこれまで以上に観光地として評価される緑化に努めたい。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
27,584	27,584	22,067	5,517	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・作業員については全て村内において公募により採用しており、妥当であったと考えている。 ・予算規模については補助基準額の範囲内であり適正であった。 ・事業費については、費用・使徒ともにこの事業での必要最低限のものであり適正であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		渡名喜村					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-	離島苦解消移動手段安定化対策事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-ウ	
担当部課名	総務課	事業実施(予定)年度	平成25～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	交通基盤の整備と交通ネットワークの充実強化 -9	
事業内容	離島観光の利便性及び離島住民の交通基盤の向上を図るため、フェリーが悪天候などにより欠航し沖縄本島と本村間におけるチャーターヘリを利用した場合、事業所に対し利用者の運賃の一部を補助する。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	2,000	2,000			
		(b)予算現額	1,240	1,560			
		(c)増減額(b-a)	760	440			
		(d)繰越額	0	0			
		A.計(b+d)	1,240	1,560			
	B.執行済額		1,240	1,560			
	うち交付金充当額		992	1,248			
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100%	100%			
予算の状況の説明		増減額については、ヘリの運航上安全の確保ができなかったためによるフライト回数の減少と、他離島の利用者との調整によるフライト回数の減少のためであり、これに伴い補正により440千円を減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	悪天候における船舶航路が欠航となった場合のチャーターヘリ利用者に対する運賃の支援	目標	(運賃支援 50回)	(運賃支援 50回)	()	()	
		実績	運賃支援 31回	運賃支援 39回			
		目標	()	()	()	()	
	実績						
達成状況説明	本村では沖縄本島での交通手段として、1日1便のフェリー運航に頼っている。しかし悪天候における船舶航路が欠航となった場合、島民の交通手段は閉ざされてしまう。このような離島での交通機関の問題を解消するため、チャーターヘリを利用したサービスを行っており、フェリー欠航時においても、観光を含め島民が安心して沖縄本島の従来がよりスムーズになった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	渡名喜村ヘリポート～那覇空港間フライト回数 50回	目標	()	(50回)	(50回)	()	()
		実績		31回	39回		
	[参考指標]		目標	()	()	()	()
			実績				
進捗状況説明	想定通りフェリー欠航時、渡名喜ヘリポート～那覇空港のフライトを実施した。目標より11回少ない理由としては、ヘリの運航上安全の確保ができなかったためによるフライト回数の減少と、他離島の利用者との調整によるフライト回数の減少のためであり、実績としては昨年度に比べ概ねフライト回数は増加した。						

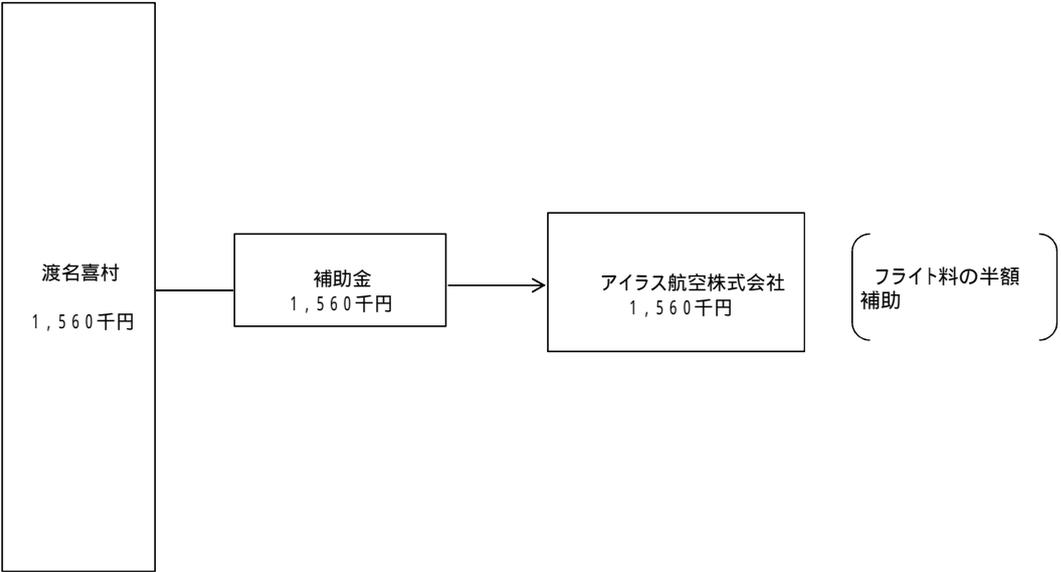
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者からはフェリー欠航時において、本村では代替の交通機関がなく島での滞在を余儀なくされ、経済的・精神的な負担となっていたがヘリチャーターの運航によりこれらの負担が軽減され大変助かっているとの声が多かった。 ・フェリー欠航時の利用者からの運航システムやキャンセル状況等の問合せが多くなることから、利用者への情報提供等の周知の徹底を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より一層の効率的な運用を図るため、問合せ時の利用者の当該事業者及びキャンセル発生時運航システム及び当日の運航状況等の情報提供の向上のため、ホームページやFacebook等のWebを活用した情報提供や村広報誌、その他チラシや村内放送等による周知に努める。

今後の取り組み方針

今後も事業者への安全管理の徹底や運航情報の周知を図りながら、フライト回数の増加に繋げ離島住民や観光などで訪れた人達への利便性の充実につとめる。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,560	1,560	1,248	312	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	・県内で民間ヘリ輸送を行っている業者はアイラス航空のみであり、業者選定・補助先については適正であったと考える。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・フライト料の半額を補助金交付する事としており、過去の欠航回数を吟味し適正に補助額を決定している。
		受益者との負担関係は妥当であるか。	・予算規模については、補助基準額の範囲内であり適正であった。
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	・受益者負担、費用、使途については補助金交付規則に沿って適正に執行されている。

市町村名		渡名喜村					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-	渡名喜村多目的拠点施設整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-(イ)	
担当部課名	民生課	事業実施(予定)年度	平成26～27年度		沖縄振興基本方針該当箇所	災害に強い県土づくりと防災体制の強化 -10(2)、-9、-4	
事業内容	村民の子育て環境の整備、健康増進、観光振興に加え、村民や観光客を自然災害から守るため、子ども預かり所、老人福祉施設、歴史民俗資料館、災害時避難施設などからなる多目的拠点施設を整備する。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	21,188				
		(b)予算現額	20,304				
		(c)増減額(b-a)	884				
		(d)繰越額	-				
	A.計(b+d)		20,304				
	B.執行済額		20,304				
	うち交付金充当額		16,243				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		当初予算額に比べ884千円の減額が出ているが、入札残によるものであり、総じて計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	多目的拠点施設基本設計の実施	目標	(基本設計の実施)	()	()	()	()
		実績	基本設計の実施				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	多目的拠点施設に係る基本設計業務を実施し、立地・敷地条件や関係法令を考慮し施設規模や平面、立面、構造、電気・機械設備などの設計を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(26年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	多目的拠点施設基本設計の完了	目標	(基本設計の実施)	(基本設計の完了)	()	()	()
		実績		基本設計の完了			
	[参考指標]		目標	()	()	()	()
			実績				
	進捗状況説明	今年度予定した基本設計については計画とおり実施し、建築物の空間構成を具体化した設計を行うことができた。次年度は基本設計に基づき、実施設計を実施していく。					

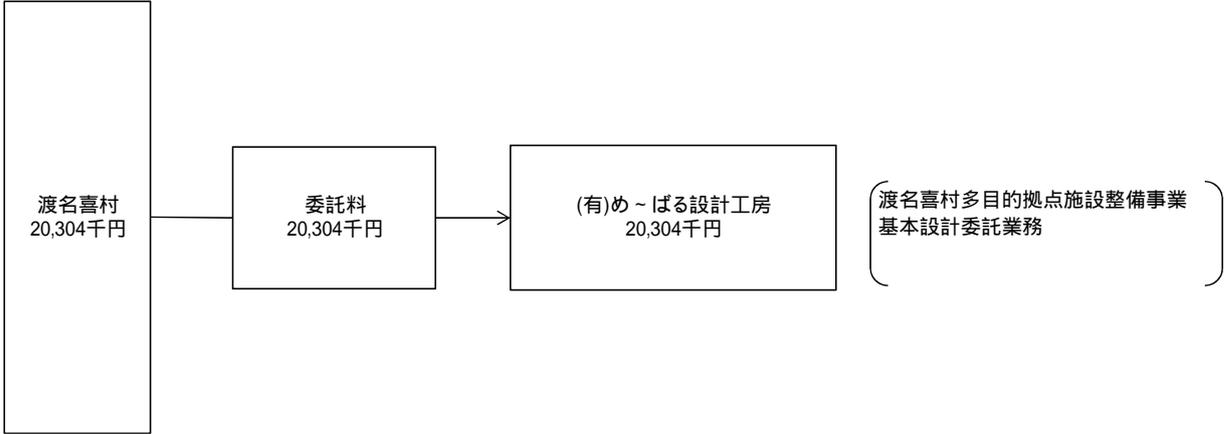
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 基本設計の策定にあたり、庁内に「検討委員会」を設置し多目的拠点施設の建設方針を決定した。 また建設予定地が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されており、関係条例や保存地区の景観及び建設基準に配慮する必要があるため、村伝統的建造物群保存地区等保存審議会や県文化財課、文化庁と調整を行った。 	<p>実施設計についても、関係部局との調整を速やかに行い、事業が円滑に実施できるよう努め、調整結果については実施設計へ適切に反映できるようにする。</p>

今後の取り組み方針

当該事業により策定された基本設計に基づき、工事の実施に必要な詳細事項を定める実施設計を行い、多目的拠点施設を建設する。老人福祉施設、子ども預かり所、歴史民俗資料館、災害時避難施設が一体となった多目的拠点施設としての活用を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
20,304	20,304	16,243	4,061	0



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 予算規模についても基本設計業務に見合った適正な規模であったと考えている。 費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し必要なものであったと考えている。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	渡名喜村
------	------

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-	「砂の道」景観保全事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア	
担当部課名	経済課	事業実施(予定)年度	平成26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際的な沖縄ブランドの確立		
事業内容	島独自の豊かな自然環境の一つであり、観光資源ともなっている「砂の道」が飛散することを防ぐため、散水車を購入し景観の保全を図る。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	2,100				
		(b)予算現額	2,100				
		(c)増減額(b-a)	0				
		(d)繰越額	0				
		A.計(b+d)	2,100				
	B.執行済額		1,766				
	うち交付金充当額		1,412				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		84%				
予算の状況の説明		執行率が84%となっているのは、入札残による不用額が334千円発生したためであり、事業自体はすべて計画どおり執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	散水車購入	目標	(購入)	()	()	()	
		実績	購入完了				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	散水車を1台購入し、「砂の道」集落内道路へ散水し、粉塵の飛散を防止し地域住民から喜ばれている。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	散水車購入	目標	()	(1台)	()	()	()
		実績		1台			
	散水車の購入により、砂の飛散防止のための砂の道への散水が可能となる。	目標	()	(散水可能)	()	()	()
		実績		散水可能			
	進捗状況説明	目標どおり散水車を1台購入した。これまで集落内の村道は、地域住民が自宅前の道路に散水していたが、散水車を購入したことにより地域住民の負担が軽減されこれまで以上に「砂の道」の景観保存が図れる。					

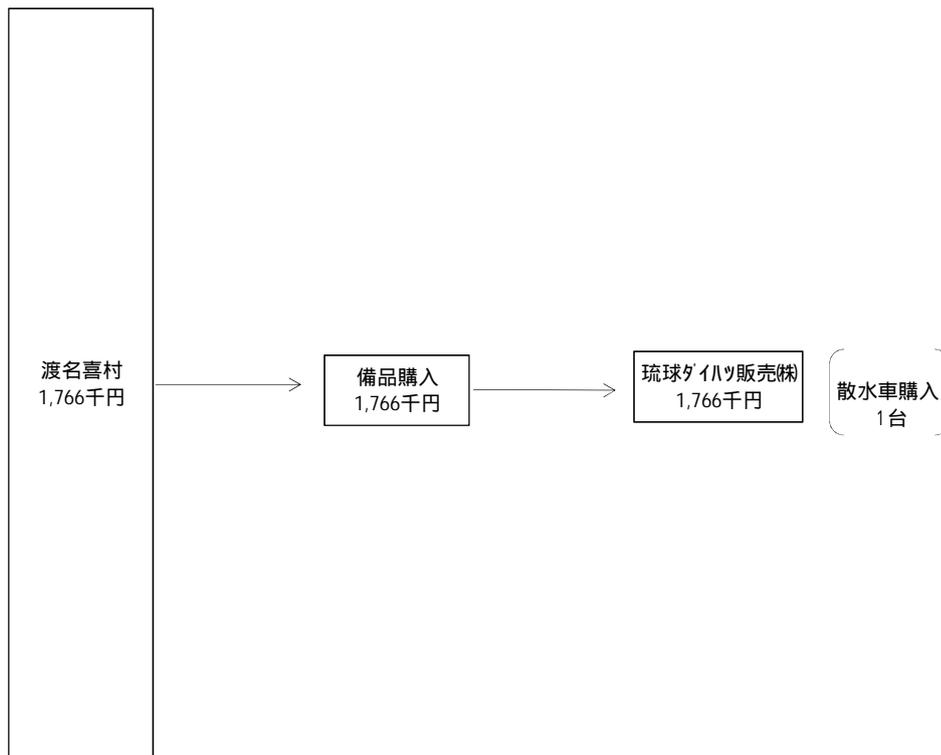
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	乾燥時期の散水について、水の積載量が小さく1台では限界があるので、効率よく散水できるよう工夫する必要がある。	効率よく散水するために、車両の往来の多い道路を中心に散水し、砂塵の飛散防止を図る。

今後の取り組み方針

散水車で定期的に散水するが、完全に粉塵の飛散を抑えることは、難しいため、地域住民には、これまで同様に協力していただき、「砂の道」景観を地域と行政が一体となって保存していきたい。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
1,766	1,766	1,412	354	0



資金の 用途の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・業者選定方法については、指名競争入札により、企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ・備品購入費については、支出等に関する書類により適正であった。 ・費用、用途ともにこの事業での必要最低限のものであり適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		渡名喜村					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8 -	児童生徒の教育活動助成事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-イ	
担当部課名	教育委員会	事業実施(予定)年度	平成26～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	教育機会の拡充	
事業内容	離島のハンディーを克服するため、児童・生徒の村外での教育諸活動(スポーツ・文化)及び交流学习への派遣費用等を助成する。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算の状況	(a)当初予算額	1,284				
		(b)予算現額	313				
		(c)増減額(b-a)	971				
		(d)繰越額	0				
		A.計(b+d)	313				
	B.執行済額		313				
	うち交付金充当額		250				
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100%				
予算の状況の説明		・不用額が971千円出ているが、止むを得ず事業の執行回数が減ったことによる不用額の発生であり、要因は海上の時化によるフェリーが欠航となった理由等によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	小中学生の教育諸活動及び交流学习に係る補助の実施	目標	交通費・宿泊費の助成・参加延べ人数137人	()	()	()	
		実績	交通費・宿泊費の助成・参加延べ人数60人				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	当初の目標の参加延べ人数137人が実績では60人となっているのは、フェリー欠航時の事業の実施が中止になった回数が増加したためであり、やむを得ず中止とならなかった場合の事業に対しては全て派遣費の補助を実施することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	スポーツ大会参加(小学生26名、中学生56名)	目標	()	小26名 中56名	()	()	()
		実績		小31名 中14名			
	文化発表会等(小学生16名、中学生17名)	目標	()	小16名 中17名	()	()	()
		実績		小2名 中8名			
	交流学习(小学生13名、中学生9名)	目標	()	小13名 中9名	()	()	()
		実績		小9名 小2名			
進捗状況説明	・悪天候によるフェリーの欠航により、大会などの参加回数は少なかったが、今年度より生徒数も増えていることから、今後は派遣する生徒数も多くなると考えられる。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・事業の推進については、スムーズに行われたものと思うが、台風や季節風により海上が時化による大会不参加が予測されることから、参加する大会等の検討する必要がある。</p>	<p>・離島であるが故に、村外の学校との接触が少ないことで、技術の向上や精神面においての遅れが目立つことから、今後は多くの大会及び他校との交流を多く取り入れることを検討する必要がある。</p>

今後の取り組み方針

人数の多い学校での交流学习や本島地区での大会へ参加する事により、多くの児童生徒と交流することで、コミュニケーションスキルの向上や、学習意欲の喚起を図ることが期待できるため、今後とも児童・生徒の教育諸活動(スポーツ・文化)及び交流学习への派遣を行っていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
313	250	250	63	0

渡名喜村
313千円

補助金 313千円

児童・生徒・指導者 313千円

村外教育活動に係る船賃及び宿泊費

資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>・支出先については児童・生徒に充てられており、適正であった。 ・予算規模については不用額が大幅に出ているが、天候の影響による事業中止を考慮すると止むを得ない理由であったので、計画どおり執行できれば適正な規模であった。 ・助成金等の用途については、事業目標達成に必要な費用であるか等について、助成額の確定した時点において書類等により確認し、適正であることを確認した。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	渡名喜村
------	------

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	9-	渡名喜村水産振興事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-イ
担当部課名	経済課	事業実施(予定)年度	平成26年度	沖縄振興基本方針該当箇所
				産業の振興
				-3-(1)

事業内容 漁業の安定操業や水産業の振興を図るため、製氷設備・貯氷設備の改修・機能強化を実施する団体へ補助する。

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a)当初予算額	57,857			
		(b)予算現額	55,609			
		(c)増減額(b-a)	2,248			
		(d)繰越額	0			
		A.計(b+d)	55,609			
		B.執行済額	55,609			
		うち交付金充当額	40,038			
		次年度繰越額	0			
		執行率(%) (B/A)	100%			
		予算の状況の説明	予算減額の理由は、当事業の入札残による減額のためで、これに伴い補正により2,248千円を減額した。			

活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)	達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度
		渡名喜村漁協が行う「製氷及び貯氷設備改修・機能強化工事」に対する、補助の実施	目標	(製氷及び貯氷設備改修に対する補助)	()	()
	実績	製氷及び貯氷設備改修に対する補助				
	目標	()	()	()	()	
	実績					
達成状況説明	目標どおり、製氷機1基の改修に対し補助を実施した。安定的に製氷することにより安定操業や水産物の鮮度保持に繋がっている。					

成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
			製氷機1基、貯氷施設1基(取替・設置)	目標	()	(改修実施)	()
		実績		改修実施			
	製氷機・貯氷施設(各1基)の整備による水の安定供給	目標	()	(安定供給)	()	()	()
		実績		安定供給			
進捗状況説明	安定的に水を製氷できるようになり、1回の操業が4～5日かかるために積み込む氷が大量となる漁にも十分対応できるようになり、水産振興に繋がっている。						

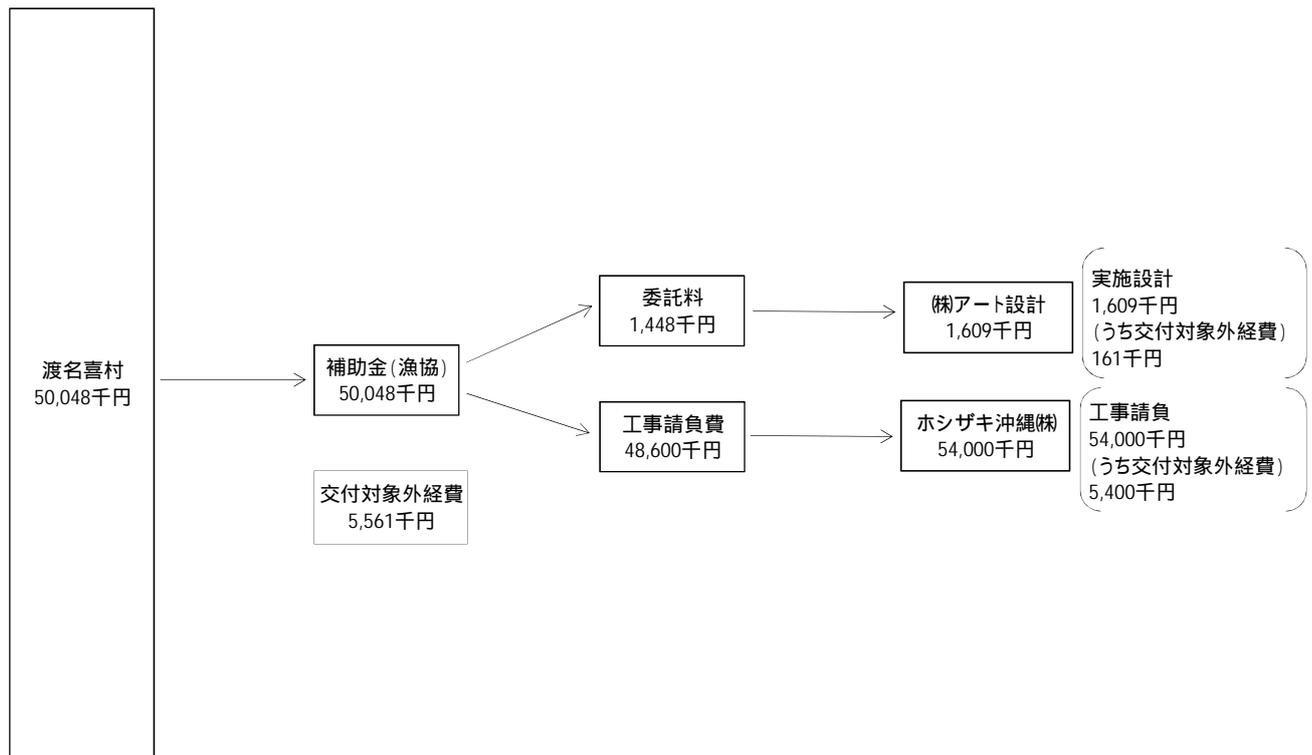
取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<p>これまでは故障や需要増加等により氷が大量に必要となった際には周辺離島から購入し充てているなどの対策を行っていたが、製氷機改修後は、村内で安定的な製氷が可能となったため、氷不足が解消され、氷需用者への安心につながっており、快適な水産業環境となっている。</p>	<p>今後は、漁船の大型化や漁船数の増加に対応でき、これまで近海の漁が主だったが遠方での操業にも対応できる。</p>

今後の取り組み方針

整備した施設を活用し、安定的に氷を製氷することにより、水産業の安定操業や水産物の鮮度保持に繋げ、水産業の振興を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
55,609	50,048	40,038	10,010	5,561



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	・村内で製氷機を保有している業者は、漁協のみであり、実施設計・工事請負業者についても指名競争入札になり企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定されており業者選定・補助先については妥当であったと考えられる。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・予算減額は入札残に伴うもので、事業費の5%以内となっているため適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	・補助率については渡名喜村補助金交付要綱により、90%補助することとしており、適正に補助額を決定している。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	・受益者負担、費用、使途については補助金交付要綱に沿って適正に執行されている。